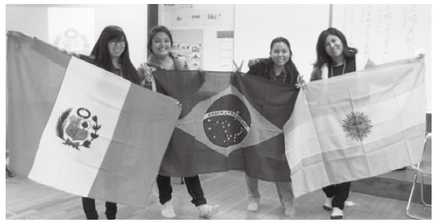
学校応援隊はえばる

～ できる人が・できることを・できるときに ～
（南風原町学校支援地域本部事業）

南風原小・南星中・北丘小・翔南小

「ペルー・ブラジル・アルゼンチンってどんな国？」
海外移住者子弟南米研修生の話～移民の歴史と南米の暮らし～



きよみ・カレン・金城・普久原さん（ペルー）／久場・美紀・カレンさん（ブラジル）
大城・ブエノ・まさみ・バネッサさん（ブラジル）／バルバラ・ノリエラ・新垣さん（アルゼンチン）

祖父母の出身地を訪れ日本語や沖縄文化を学んでいる南米研修生（３世・４世）が、地域の学校で授業を行いました。100年以上前に移民した人たちの苦労や南米の暮らしを紹介し、ゲームや給食で交流を深めました。「南米と日本の男の人ではどちらが格好良い？」と児童からの質問に研修生たちは大笑いでした。

翔南小学校４年

「視覚障がいをもつ方の講話とアイマスク体験」と「盲導犬講話」

神里幸子さんと田場敦さん

桐原好枝さんとウィッピーくん

４年生では「視覚障がいを持つ方の理解を深める事、介助者としての心構えを学ぶ」を目的に、田場敦さん（町社協職員）と神里幸子さん（山川）を講師に迎え学習をしました。児童からは「福祉は、みんなが安心して幸せな生活を送る手伝いをする事。また、介助体験では声かけの大切さが分かりました。」と感想がありました。

また別日に北谷町から盲導犬ウイッピーと桐原好枝さんをお招きし、盲導犬の役割と社会理解を学習しました。桐原さんは「目に障がいがあっても努力・挑戦する事で充実した生活を送ることが出来ています。これからも盲導犬を理解してもらえる様に頑張ります。」と児童へメッセージを送りました。

南風原小 6年

「先輩と語る会」
～中学・高校ってどんなですか？～

儀間思音さん（南風原高校郷土文化コース３年/左）
仲村彩花さん（向陽高校国際文化科３年/右）

南風原小６年生では、卒業生を招き学校生活や進路について話しを聞きました。仲村さんは国際交流を通して「書道や日本食などの文化を自分で伝えられるように努力した」と話しました。６年生からは「勉強や部活・芸能舞台もあるとわかった。人一倍努力して留学もしてみたい」との感想がありました。

津嘉山小 4年

「ようこそ津嘉山小へ」
～盲学校の児童との交流会～

前列左より２番目・翔くん・梨音さん

４年生では福祉学習の一環として県立盲学校４年生の宮城翔さん、大城梨音さんを招き交流授業を行いました。歓迎会では、翔さんのピアノ演奏と梨音さんのダンスがあり、その後体育や音楽の授業を一緒に受けました。児童からは「とても楽しい交流会でした。ピアノ・ダンスと特技があってスゴイ！と思いました。」と感想があり、先生からは「子供たちが積極的に手を貸す姿もみられ、とても良い授業になりました。」と感想がありました。

平成27年 青年海外派遣事業研修報告
（南米　ブラジル・アルゼンチン・ペルー）
南米元研修生の様子とこれからのアクション

第3期　兼城　凛子（24歳）

私は南風原町青年海外派遣事業に参加し、南風原町の研修生として1ヶ月南米に派遣されました。南米3ヵ国（ブラジル、アルゼンチン、ペルー）に滞在し、南風原町人会との交流や現地での歴史・移民学習を行いました。南風原町には、戦前戦後を通して、南風原町の人々が海を渡り世界各地に移民した歴史があり、私たちが南風原町から南米に派遣されたのは、南米に移民した南風原人との交流が現在も続いており、その絆を南風原町が大切にしているからです。

南風原町は毎年、南米からの研修生を受け入れており、この受け入れ事業は今年27年目を迎え、南風原で学んだ研修生は50人を超えました。現在では世界各地に約40万人のウチナーンチュがいると言われており、その中には私たちの住んでいる南風原町出身の方やその子弟もいます。私たち研修生は南米の南風原町人会の方々や元研修生たちにお世話になり、研修を行いました。私はこの研修での経験や各国の様子を南風原町の皆さんと共有し、海を越えた南米で見つけた南風原町の素敵な魅力を伝えたいと思います。

【元研修生の様子】

ブラジルでは元研修生の家庭でホームステイをしました。私はもともと沖縄をルーツに持つ南米の友達がいて、彼らは沖縄に誇りを持っており、日本語や沖縄文化を一生懸命勉強しています。南米に住んでいながらも沖縄について興味を持っているのは、祖父母や親が家庭で沖縄について子供たちに話をしているからだと思っていました。しかし、ブラジルでホームステイをしていて気付いたのは、私たちと日本語で話す元研修生には、日本語が話せない兄弟がいるということです。気になって元研修生に尋ねると、日本語を話せるのは「南風原町の研修で日本語を勉強したから」だと言っていました。そこで初めて、兄弟の中でも日本語の能力や沖縄に対しての意識が異なることを知りました。元研修生は南風原町での研修で学んだことをきっかけに、研修を終えても勉強を続け、祖父母と日本語でコミュニケーションを取り、研修が活かされていることがわかりました。またアルゼンチンでは、元研修生が私たちの研修の日程や内容を計画し、ホームステイも元研修生が受け入れてくれました。元研修生たちと一緒にアルゼンチンの料理を作ったり、タンゴを踊ったり、周りの町人会の大人達は元研修生が私たちと交流し、積極的に動いている姿が頼もしく見えたと思います。ペルーでは、元研修生が南風原町人会の枠を超え、他市町村の元研修生たちと交流していました。元研修生は町人会の活動だけではなく、仲間と一緒に沖縄県とのネットワーク構築を意欲的に行っていることがわかりました。

各国の町人会の規模や国事情はありますが、共通しているのは元研修生が私たちの研修に対し一生懸命で、町人会で活躍していたことです。研修を振り返ってみると、元研修生たちはいつも私たちのそばにいて、共に学びあい、私たちの研修になくてはならない心強い存在でした。

【研修を終えて】

帰国した今、研修を通して学んだことや感じたことを自分の経験としてだけではなく、南風原町や沖縄県内外に発信し、南米に住んでいる南風原人について興味をもってもらいたい、知ってほしいという気持ちになりました。

【南米で見つけた「南風原」の魅力】

南風原町人会は他の市町村と比べると規模は小さいですが、一人一人の存在が大きく、「南風原」で私たちは繋がっている！という絆とチームワークを感じました。現在は、今回南風原が受け入れた研修生と共に、勤務していた中学校や南風原町内の学校で研修報告をしています。私が伝えることによって、住んでいる南風原町の歴史や南米に住んでいる南風原人のことを知り、南風原町のことに少しでも興味を持ってくれるとうれしいです。南風原町は南米の他にも、ハワイやカナダの南風原町人会と毎年交流を行っています。世界に目を向け、国際的な視野を養うチャンスが南風原町にはあります。私と同じように南風原町で育つ子どもたちに、南風原町にはこのような貴重な経験のチャンスがあることを伝えていきたいです。

また、元研修生として、これからも受け入れや派遣される研修生のサポートをしていき、将来的には、私も研修生を受け入れたいと考えています。そして、今年の10月に沖縄県で開催される世界のウチナーンチュ大会には、南風原町人会の方も南風原町に帰ってきます。私が南米で歓迎してもらったように、私も彼らが南風原へ帰って来た時の準備や彼らのためにできることをみつけ、南風原町を盛り上げていきたいです。

南米は沖縄の反対側の遠い地域ではありますが、私たちと同じように「南風原」をルーツとし、南風原や沖縄を大切に想っている人たちがいます。そして、南風原町で学び、祖国に戻った研修生たちは、町人会をリードする頼もしい存在となっています。彼らの存在や、その人たちとの絆を大切にし、未来に繋げているところは、南風原町の魅力だと思います。

私たちの研修が実りあるものになったのは、南風原町人会の方や、元研修生が一丸となって協力し、研修をサポートしてくれたおかげです。「南風原」の縁で出逢えた南米の方々に感謝しています。再会を楽しみにしています。

最後に、私たちにこのような素敵な機会を与え下さった南風原町をはじめ、この研修をサポートしてくださった関係者の皆さんに感謝申しあげます。本当にありがとうございました。